

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

遺跡が語る巣鴨の植木屋

— 発見された 15 枚の“かわらけ”と植木室 —



「埋蔵文化財の発掘調査中です。ご協力をお願いします」という看板を地蔵通りで見たことはありませんか？ 一見するとただの工事現場ですが、この看板があるところは普通の工事現場と少し違うことに気づくことでしょう。

この春（2008年3月～5月の初め）まで、巣鴨の地蔵通りに面した島屋・長寿堂ビル地区では、(株)島屋メリヤス巣鴨ならびにせんべい長寿堂、地域の皆様のご協力を得て発掘調査が行なわれました。



植木室から出土した半胴甕
底に穴をあけて、植木鉢として利用しています

この場所は、江戸時代には巢鴨町の町屋（町人が住む家屋）にあたります。調査では貴重な成果がいくつかありましたが、ほかに例を見ない2つの大きな発見をご紹介します。

ひとつは、整然と並んで出土した15枚の“かわらけ”（素焼きの皿）です。“かわらけ”は直径6～7cmほどの大きさで、3枚一組で四角い穴の中央と四隅に置かれていました。きちんと揃えて置かれている様子からは、捨てられたものとは到底考えられません。すると埋められた場所や、3枚一組・5セットという数にも何か意味があるのでしょうか。

この“かわらけ”を埋めた穴の周りを見ると、付近には直径が50cmを超える柱穴が並んでいます。“かわらけ”を埋めた穴に巢鴨町でもかなり大型の建物があったことを考えると、この建物を建てる時や、その後には何かの“まじない”のために、建物の近くに埋められたので

はないでしょうか。すると「5」という数字も、「五穀（米・麦・アワ・豆・キビ）」「五色（青・赤・白・黒・黄）」などを示しているのかもしれませんが、残念ながらこのようなかたちで発見された例はこれまでなく、具体的に何のために埋められたかは今のところ謎のままです。今後の調査で新たな発見があれば、またお伝えしていきたいと思います。

もうひとつは植木室（うえきむろ）です。この名の通り植木用の地下室ですが、少々変わったものでした。この地下室は階段を下りていくと、2.5m×2mほどの長方形の部屋があります。ここまでの構造は、江戸時代によく作られる地下室と大差はありません。変わっていたのは、この部屋のほかに幅1.2m×奥行き1mほどの袋状の小部屋が2つあったのです。部屋は小さく、天井までは約75cmと、小柄な人がしゃがんで座れるくらいの広さしかありません。室内は、炭化物や焼土が混じった土で埋まっており、天井には煤、床には焼けた跡が残っていました。ここで火を焚いて、苗木や植木を保温しておいたのでしょうか？この植木室からは当時使っていたと思われる植木鉢や、底を打ち欠いて植木鉢に利用した甕なども多く出土しています。

幕末の巢鴨町には鍛冶屋・大工・酒屋・馬具屋・髪結屋など、多様な職業の町人が住んでいましたが、発掘調査により、この場所には植木屋が住んでおり、中山道（現地蔵通り）に面して大きな店を構えていたことがわかりました。今後の整理調査によって、埋められた“かわらけ”の謎、出土した鉢に何を育てていたのかなど、巢鴨の植木屋の実像を探っていきたいと思います。

（小川祐司）

町と遺跡を見てある記

～ 駒込一丁目から巢鴨 ～

3月28日に「東アジアの古代文化を考える会」の皆さん約40名を駒込一丁目遺跡から染井遺跡を通り、巢鴨遺跡までご案内しました。折よく発掘調査をしていたこともあり、充実した内容となりました。染井霊園にある坪井正五朗の墓も、ひじょうに好評を博しました。



受講生募集中！ 「考古学から学ぶ豊島区」

申込み・問合せ：勤労福祉会館 TEL 03-3980-3131

近年の発掘調査の成果から、豊島区の過去を学んでみませんか。遺跡見学も予定しています。

- ・日時：2008年7月5日～7月26日 毎週土曜日 午後2時～4時（全4回）
- ・定員：20名
- ・費用：2,600円（教材費含む）
- ・会場：勤労福祉会館ほか
- ・講師：宮川和也、両角まり、高木翼郎、小川祐司（NPO法人としま遺跡調査会）

染井遺跡 駒込四丁目 で遺跡見学会を開催

3月1日（土）、この日は晴天に恵まれ、春を感じさせる陽気となりました。そんななか、染井遺跡では8年ぶりの見学会が行なわれました。

発掘調査を行った染井遺跡（三菱地所駒込四丁目マンション地区）は、江戸時代において津藩藤堂家下屋敷と抱屋敷（当時は「染井屋敷」と呼ばれる）の一角に位置しています。この発掘調査及び見学会は、豊島区教育委員会の主催で三菱地所株式会社のご協力により実施いたしました。

今回の遺跡見学会で、私たちは“リアルさ”にこだわりました。せっかく足を運んで頂くのですから、なにか思い出を作ってもらいたい。それには遺跡の実際を見てもらうのが良いのではないかと考え、現場内にはいくつかの“リアルさ”を用意してみました。

まずひとつめとして、会場である発掘現場では、実際に発掘作業をしているなかで遺跡の説明を話しました。日頃、発掘調査を見る機会は滅多にありません。実際に目の前で手馴れた手つきで掘り進めていく作業員さんの姿は、とても新鮮に映ったのではないのでしょうか。作業員の皆さんは、この道幾年のベテラン揃いです。参加者の中には、「掘るのが上手い！」と、説明員の私よりも作業員さんに釘付けになっている方もいました。「どうしたらこうした穴が残るんだ？」と、熱心に作業員さんに尋ねている方もいました。私の説明の方も聞いてほしいなあとも思いましたが、手を休めずに、受け答えをする作業員さんから“リアルさ”を感じ取ってもらえたのではないのでしょうか。

ふたつめは『遺物展示コーナー』です。この地区から掘り出された陶磁器や土器などの遺物を“出土してまだ土が付いたままのモノ”“水洗



出土した江戸時代の遺物で、手に取る楽しさを体感！



遺跡見学会の様子。近隣の方をはじめ、多くの方が訪れました

いできれいになったモノ”“接合できそうな遺物を集めた状態”といった整理過程がわかるような演出を施しました。加えて、遺物をただ眺めるのではなく、実際に手に持って質感や重さを感じてもらえるようにしました。皆さん最初は、恐る恐る触っていましたが、そのうち破片をくっつけてみたり、はたまた匂いを嗅いでみたり（？）と、江戸時代の茶碗や徳利など、「生」の資料に触れて楽しんでいました。

私たちの方と云えば、40分ほどの説明が終わったとたん、参加者からの質問が待っていました。質問の内容は多岐に渡り、改めて地元の歴史に対しての関心の高さを実感しました。休む暇なく話していたせいか、情けないことに見学会が終わるころには声が枯れてしまいました。しかし、大勢の方にご来場頂きそして接し、さまざまなご意見をいただき、また勉強させられ、とてもやり甲斐があった見学会でした。

見学会開催にあっては、設営準備や警備・誘導、遺物説明などは豊島区教育委員会のほか、私たちと一緒に発掘した加藤建設㈱など多くの方々にご協力を頂きました。ここで感謝の意を込め、皆様には心からお礼を申し上げたいと思います。

今後も、こうした見学会や発掘調査などを通して、地域にお住まいの皆様と接して交流を深め、地域の歴史や文化の研究・普及に努めてまいりたいと思います。

（高木翼郎）

池袋東貝塚

(豊島区 No. 2 遺跡)

～ 地元の考古学者が見出した 幻の貝塚 ～

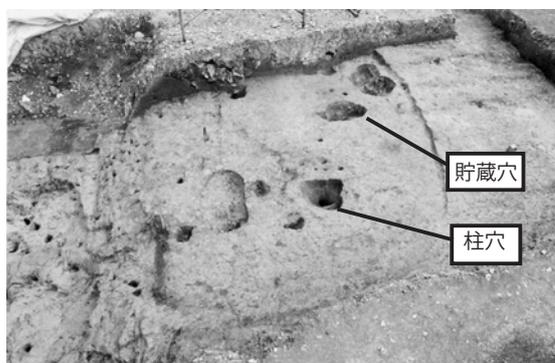
今回は、「池袋東貝塚」をご紹介します。豊島区遺跡地図では、池袋本町三～四丁目の一角がその範囲とされていますが、げんざい正確な位置は不明となっています。都市化が進む豊島区にあって、失われゆく自然環境と同じく、遺跡もまたかつての面影を留めることは、ひじょうに難しいことと言えます。

さて、この貝塚の発見は、いまをさかのぼること 120 年余、実に明治時代後半のこととなります。近隣の氷川神社裏貝塚が、このころ著名な遺跡として学界の注目を集めたことは前回お話しした通りですが、この貝塚に魅せられ、訪れた研究者の一人に^{まいだ そうじろう}蒔田鎗次郎という若き考古学者がいました。彼はげんざいの豊島区駒込一丁目に居を構えていた地元の研究者ですが、氷川神社裏貝塚へおもむく途中、偶然にも新たな貝塚を発見したものです。彼の報告によれば、貝層は当時の地表から深さ 30cm 前後で確認され、かなりの規模をもった貝塚であったようです。そこから、多数の縄文土器や石器が発見されました。

この貝塚は、鎗次郎によって「池袋東貝塚」と名づけられました。しかし、発見からまもなく、周辺の宅地化が進み、本格的な調査も行なわれないまま貝塚の姿は失われていきました。いまや貝塚の正確な位置は不明ですが、推定位置の周辺では今も縄文土器をはじめとした遺物が発見されますので、ここに縄文人の集落が存在していたことは間違いのないでしょう。さら

に、新しい発見もありました。2000 年に豊島区教育委員会によって行なわれた発掘調査で、弥生時代後期の竪穴住居址が発見され、ここに弥生時代の集落が存在したことが明らかとなったのです。この遺跡周辺では、多少の断絶はあるにせよ、貝塚が築かれた縄文時代から、のちの弥生時代に至るまで、人々が連綿として生活を営んでいたわけです。

ところで、この蒔田鎗次郎、彼は池袋東貝塚の発見の後、考古学史上に大きな業績を残すことになるのですが、これはまた別の機会にお話しすることにしましょう。ただ、彼の名は豊島区の遺跡を語る上で、これからもたびたび登場することとなります。(宮川)



池袋東貝塚で発見された弥生住居址
柱穴や貯蔵穴も見えます

(エスケイホームズ分譲住宅地区)

【編集後記】

去年から雨男です。現場に出る度に必ず 1 日は雨が降る有様です。

NPO 設立から早いもので 1 周年。今年はまだ少し活動の幅を広げていきたいと思案中。(担当小川)

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201 号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>